

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		水辺環境の整備			款	5	項	3	目	3	事業	2	整理番号	408				
担当部課名		都市整備部建設課			係名	施設整備係			連絡先 電話番号	3428			昨年度 整理番号	471				
上位施策No・施策名		12 水辺とみどりの保全・創出			予算事業区分								投資事業					
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	13	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業		分野	1	政策 番号	2	施策 番号	1	事業 コード	1	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input checked="" type="checkbox"/> 主要事業	
	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理			根拠 法令 等		(1) 地方自治法第281条2項 (2) 河川法第16条の2										
	事業の目標		(対象をどのような状態にしたいのか)			活動指標名(式)		(1) 護岸緑化整備延長(累計) (2)										
	活動内容		(事務事業の内容、やり方、手順)			成果指標		(代) = 適当な指標がない場合の代替指標										
		区民が安心して暮らせる河川環境を確保するため、護岸補修・河床保護等の整備を行う。 潤いと安らぎのある水辺空間の再生・創出を図るため、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業に係る基本方針を策定し、計画的に事業を進める。			成果指標名(1)		護岸緑化整備率											
					算定式・指標 の説明等		H13からの累計整備延長 ÷ H13からH22までの累計整備延長目標値 × 100											
					成果指標名(2)		みどりや水(河川等)とのふれあいを実感している区民の割合											
					算定式・指標 の説明等		区民意向調査による											
区分		単位	18年度		19年度		20年度		21年度		目標値	目標値に対する	計画に対する					
			実績		計画		実績		計画		22年度	20年度の	20年度の					
												達成率%	達成率%					
指標	活動指標(1)		m	1,101	1,349	1,203	1,349	1,203	1,203	1,514	79.5	89.2						
	活動指標(2)																	
	成果指標(1)		%	72.7	89.1	79.5	89.1	79.5	79.5	100.0	79.5	89.2						
	成果指標(2)		%	60.8	66.0	67.2	68.0	67.9	69.0	70.0	97.0	99.9						
総事業費・コスト把握	事業費		千円	59,251	58,676	56,357	93,485	70,442	87,604	20年度予算執行率% 75.4								
	(内)投資的経費等		千円	59,251	58,476	56,248	93,036	70,099	86,720	特記事項 前年度事業費からの増減理由：主に予算編成再構築により、他課の事業(河床保護工事に係るもの)の一部が統合された他、護岸補修工事実施により増額されています。執行残の理由：護岸補修工事において、施行手法等を再検討した結果、当初予定した規模縮小に伴い残額が生じました。その他(指標について)：基本的には、活動指標に基づく成果指標の標記が望ましいと考えますが、当該事業を総合的に分析するものとして「杉並区区民意向調査」の結果を掲載しています。その他(指標について)：活動指標として、護岸緑化に係る整備延長を掲載していますが、今後の護岸をはじめとした河川全体の緑化のあり方について、再検討・研究が必要と考え、20年度は実施していません。なお、21年度についても実施を見送っています。								
	(内)委託費		千円	59,251	58,476	56,248	92,057	69,456	86,479									
	職員数(常勤 非常勤)		人	0.90 0.00	1.20 0.00	1.24 0.00	2.55 0.00	2.75 0.00	2.30 0.00									
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)		千円	8,154	10,968	11,334	23,078	24,888	20,815								
		(内)非常勤職員分		千円	0	0	0	0	0	0								
	総事業費 + +		千円	67,405	69,644	67,691	116,563	95,330	108,419									
	単位あたりコスト (-) ÷		円	7,406	8,279	9,512	17,440	20,973	18,037									
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0	0	0	0								
		国からの補助金等		千円	0	0	0	0	0	0								
都からの補助金等		千円				0	0	0										
その他の補助金等		千円				0	0	0										
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	0	0	0										
差引：一般財源 -		千円	67,405	69,644	67,691	116,563	95,330	108,419										
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0										

18年度、19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 408

20年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費(千円)
		(1)主な取組み	護岸補修工事(妙正寺川第一工区)	30
(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	河床保護工事(神田川)	1,400	m <sup>2</sup>	18,659
	善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出基本計画策定委託	1	件	7,455
	河床保護工事の測量・設計委託(善福寺川)	1,200	m	7,329
	その他(流域案内板設置工事(善福寺川)等)			9,752
	(2)事業実績	区民が安心して暮らせる河川施設の充実を図るため、老朽化した護岸の補修(妙正寺川)や河床の保護(神田川)を行いました。また、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業においては、検討懇談会を設置し、事業の基本的な取組みの視点についての提言をいただくとともに、これに基づく基本方針の素案を策定しました。あわせて、事業への区民意識の高揚や幅広い区民意見・基礎数値の把握を目的にシンポジウムや水鳥の一斉調査を実施しました。		

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	今後の予測
	親水性のある散歩道整備を目的として立ち上げられた事業ですが、現在は大規模改修ではなく、河川をより身近なものとして感じられる装置(キロポスト整備・流域案内板設置・河川緑化等)の整備や日常の維持管理に付随する経年劣化に伴う護岸補修や河床保護等を進めています。	河川は治水・利水の役割だけでなく、貴重な水とみどりの空間として潤いや安らぎを与えるとともに、多様な生物の生息・生育環境を形成するものとして、その役割は大きく見直されつつあります。豊かな自然資源であるみどりや水を大切にしたいとする区民意識の高揚等を考慮しつつ、水を取り巻く良好な環境づくりを積極的に推進することが期待されています。	水辺は貴重な水とみどりの空間として、地域社会に潤いや安らぎを与えるとともに、まちの景観形成や余暇の有効活用等において、重要な役割を果たしています。特に近年では、まちづくりの視点から周辺地域を巻き込んだ一体的な水辺環境整備が社会的要請となりつつあります。

事業のあり方点検	左の理由または具体的内容	
	(1) 施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由 )	水辺空間をみどりや水に親しめる環境とすることは、失われつつある自然環境の保全・創造に大きく貢献し、ひいては区民の生活活力の増進につながるものと考えます。
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( ) 成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	人と水とのふれあいの場づくり、潤いや安らぎの視点から、ソフト・ハードの両面から総合的に整備メニューの検討・研究が重要と考えます。
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	水辺環境の整備全般において、居住者や利用者を限定することはできないため、受益者負担は適当でないと考えます。
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	定期的に工法やコスト削減に関する検討を重ね、改善に努めています。

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者(3)へ
	(3) 協働等の形態 委託 [業務量の50%以上に相当]	(4) 協働等の今後のあり方 実施継続

評価と課題  
安全な河川環境を維持するため必要な護岸補修や河床保護を進めています。また、快適な河川環境づくりに向け、流域案内板の設置に取り組んでいます。区内の3河川は区民の貴重な財産と考えますので、都と連携した河川改修を進めながら安全で魅力的な水辺環境をつくっていきます。さらに、区の代表的河川である善福寺川において、潤いと安らぎのある水辺空間の再生・創出を図るため、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業に区民とともに取り組んでいきます。

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	● 増	○ 現状維持	○ 減	コスト:	○ 増	● 現状維持	○ 減	
	(1) 前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	河川施設については、老朽化に伴う護岸補修や河床保護等を計画的に実施しています。また、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業においては、今後、基本方針に基づき、東京都や地域住民と連携した施策が展開できるよう、事業の推進を図っています。21年度予算については、同等事業規模のため、増減はありません。							
	(2) 改革案の概要(いつまでに、どうするかたち) 事業のあり方点検欄を踏まえて記入	既定事業(河川改修計画・まちづくり計画等)と一体的に水辺空間の整備を図ることが社会的要請となりつつあります。これらの実現に向け、地域住民を巻き込んだソフト事業を継続的に展開するとともに、東京都をはじめとした関係機関との連携による、水辺環境再生を視野に入れたハード事業の実現について検討・調整が必要と考えます。さらに、区単独で実施可能なハード整備事業についても新たなメニューの検討・研究を行う必要があると考えます。							
(3) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	整備実現に向け、具体的な整備主体(東京都及び区)、整備手法、予算措置(財源確保:補助金等の導入)等を明確にした事業計画の推進が必要と考えます。								
22年度方針	(1) 22年度予算見積の方向性	○ 大幅増	○ 増	● 増減なし	○ 減	○ 大幅減	○ 予算なし		
	(2) 理由	基本的には、21年度予算と同等事業規模が見込まれているため、増減がないものと考えます。							

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		みどりを育てる		款	5	項	4	目	2	事業	1	整理番号	427						
担当部課名		都市整備部みどり公園課		係名	みどりの計画係			連絡先電話番号	3593			昨年度整理番号	488	枝番号					
上位施策No・施策名		12 水辺とみどりの保全・創出										予算事業区分							
事務事業の概要	事業開始	昭和	▼	48	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画事業	分野	1	政策番号	2	施策番号	1	事業コード	4,5,7	<input type="checkbox"/>	行革計画事業	<input type="checkbox"/>	主要事業
	対象	<input checked="" type="checkbox"/>	個人	<input type="checkbox"/>	世帯	<input checked="" type="checkbox"/>	団体	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	<input type="checkbox"/>	内部管理	根拠法令等 (1) 杉並区みどりの条例 (2) 都市緑地法							
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	地域緑化に関する普及啓発事業の推進を通して、区民等の緑化意識の醸成を図ります。								活動指標名(式) (1) みどりの新聞の発行部数 (2) みどりの講座開催数									
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	緑化に関する印刷物の発行やみどりのボランティアの育成、みどりに関する講座の開催等を行う。								成果指標 (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) みどりのボランティア杉並登録者数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 講座への延べ参加者数 算定式・指標の説明等									
区分		単位	18年度		19年度		20年度		21年度		目標値	目標値に対する20年度の達成率%	計画に対する20年度の達成率%						
			実績		計画		実績		計画		22年度								
指標	活動指標(1)		人	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	100.0	100.0						
	活動指標(2)		回	7	20	8	10	6	10	10	10	60.0	60.0						
	成果指標(1)		人	166	150	168	150	25	150	150	150	16.7	16.7						
	成果指標(2)		人	107	600	265	500	180	300	300	300	60.0	36.0						
総事業費・コスト把握	事業費		千円	11,035	45,258	31,991	14,344	8,267	22,317	20年度予算執行率%			57.6						
	(内)投資的経費等		千円	0	0	0	0	0	0	特記事項									
	(内)委託費		千円	2,848	32,880	24,482	7,048	4,382	11,602	20年度事業費は、19年度に実施したみどりの実態調査経費分が減っています。									
	職員数(常勤 非常勤)		人	3.90 0.00	3.90 0.00	4.37 0.00	3.95 0.00	4.31 0.00	4.95 0.00	みどりの基金による専門講座、ボランティア助成及びみどりのベルトづくりにおける新規モデル地区の検討業務などを実施しなかったため、執行率が低くなっています。									
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	千円	35,334	35,646	39,942	35,748	39,006	44,798	成果指標(2)の目標値を実態にあわせ30人/回に変更した。									
		(内)非常勤職員分	千円	0	0	0	0	0	0										
	総事業費 + +		千円	46,369	80,904	71,933	50,092	47,273	67,115										
	単位あたりコスト (-)÷		円	662	1,156	1,028	716	675	959										
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0	215	17	215									
		国からの補助金等		千円	0	0	0	0	0	0									
都からの補助金等		千円				0	0	0											
その他の補助金等		千円				0	0	0											
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	215	17	215											
差引:一般財源 -		千円	46,369	80,904	71,933	49,877	47,256	66,900											
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.3											

18年度、19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 427

20年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費(千円)
		登録ボランティアへの保険、資材提供等		
(1)主な取組み (執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	みどりの講座の開催	6	回	253
	みどりの新聞等印刷物の発行	73,700	部	4,367
	みどりの普及啓発イベントの開催	2	回	303
	その他( )			3,183
	(2)事業実績	みどりのベルトづくりについては、高円寺をモデル地区に指定するため、説明会の開催等を実施した。また、専門家を交えて、屋敷林等の保全に向けた調査研究を行いました。		

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	区内の緑の状況は、緑被率が昭和47年より平成9年まで減少を続けていたが、平成9年を境に14年、19年と増加を示しており、概ね減少傾向に歯止めが掛かっている一方で、緑地率は減少し、生産緑地や屋敷林は減っています。
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	区民の緑化意識の高まりを反映して、印刷物や講座に対する関心は高く、要望や投稿などがあります。
	今後の予測	団塊世代や緑化に関心のある高齢者の増加とともに、今後も緑化への関心は高まると予測できます。

事業のあり方点検	左の理由または具体的内容	
	(1) 施策への貢献度は大きい 貢献度 大(理由 )	地域の緑化は、公のみでなく、区民等の理解と実践が不可欠であることから、緑化に関する普及啓発事業は施策への貢献度は大きいです。
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( ) 成果向上のための方策 組織権限等の見直し(具体的内容 )	事業の性質上、労力と時間を掛ければ、これまで以上の成果を上げられるため、人員を更に投入する必要があります。
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	完全な受益者負担を導入すれば、受講料の増額をおこなうこととなり、高額な受講料では受講者が減少します。
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	緑化に関する普及啓発を主とする事業であることから、現在のコストは妥当と考えます。

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 一部実現している	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)
	(3) 協働等の形態 協働[事業協力]	(4) 協働等の今後のあり方 実施継続

評価と課題	イベント、講座の開催及び新聞の発行等による、みどりの普及啓発を地道に実施するとともに、みどりのベルトづくりにおいても、モデル地区として高円寺での取組みを区民と進めてきました。こうした取組みにより、区民のみどりに対する意識が少しずつ高まってきています。しかし、区民がみどりの創出・保全に、より自発的に取り組むためのサポートを区が継続して進める必要があります。
-------	--

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	● 増	○ 現状維持	○ 減	コスト:	● 増	○ 現状維持	○ 減	
	(1) 前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	21年度予算は、みどりの基本計画改定を行うため、増額しています。							
	(2) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに)	事業のあり方点検欄を踏まえて記入 今年度「杉並区みどりの基本計画」を全面改定する予定であり、施策個々の進捗度や評価とあわせ、今後の区内のみどりを取り巻く状況に対応する緑化施策の再構築を図ります。							
	(3) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	屋敷林等のみどりの保全施策については、様々な仕組みがありますが、最終的には公有地化しなければみどりの保全が困難な状況にあります。一方で、区の財源は限られているため、最小の経費でみどりを保全していく制度を案出することが求められています。							
22年度方針	(1) 22年度予算見積の方向性	○ 大幅増	○ 増	● 増減なし	○ 減	○ 大幅減	○ 予算なし		
	(2) 理由	改定が予定されている「杉並区みどりの基本計画」に即した施策を推進します。また、みどりのベルトづくりモデル地区における継続的な事業推進とみどりの基金の効果的な運用を進めます。							

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		みどりを創る		款	5	項	4	目	2	事業	2	整理番号	428							
担当部課名		都市整備部みどり公園課		係名	みどりの事業係			連絡先電話番号	3595		昨年度整理番号	489		枝番号						
上位施策No・施策名		12 水辺とみどりの保全・創出										予算事業区分								
事務事業の概要	事業開始		昭和	▼	48	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画事業	分野	1	政策番号	2	施策番号	1	事業コード	5,7	<input type="checkbox"/>	行革計画事業	<input type="checkbox"/>	主要事業
	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		緑化の助成 個人、事業者、学校接道部緑化・公共施設の緑化 区立学校、区立施設 みどりのサイクル 公園、学校、河川、公共施設		根拠法令等		(1) 杉並区みどりの条例・杉並区みどりの条例施行規則 (2) 杉並区接道部緑化助成要綱											
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		道路に接した部分を生けがきにしたり、建物の屋上や壁をみどりで覆うことにより安全でみどり豊かなまちなみ環境を創ります。		活動指標名(式)		(1) 接道部緑化助成延長 (各年度700m) (2) 学校接道部緑化 (2校)													
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		個人の建物の屋上・壁面に緑化をするときや道路に接した部分に生けがきなどを作るとき費用の一部を助成する。学校の道路に接した部分に植樹帯などを設け緑化する。		成果指標 (代) = 適当な指標がない場合の代替指標		成果指標名(1) 接道部緑化助成率 算定式・指標の説明等 整備延長 ÷ 整備計画延長 × 100 成果指標名(2) 接道部緑化設置校率 算定式・指標の説明等 設置校数 ÷ 設置計画校数 × 100													
区分		単位	18年度		19年度		20年度		21年度	目標値	目標値に対する20年度の達成率%	計画に対する20年度の達成率%								
			実績		計画		実績		計画	実績		22年度								
指標	活動指標(1)		m	608	700	634	700	527	700	700	700	75.3	75.3							
	活動指標(2)		校	2	2	4	2	2	2	2	2	100.0	100.0							
	成果指標(1)		%	87	100	91	100	75	100	100	100	75.3	75.3							
	成果指標(2)		%	100	100	200	100	100	100	100	100	100.0	100.0							
総事業費・コスト把握	事業費		千円	86,113	107,190	95,293	111,761	90,912	105,353	20年度予算執行率%			81.3							
	(内)投資的経費等		千円	6,980	21,500	14,042	21,500	5,744	16,500	特記事項 ・景気の悪化による住宅需要の低下で、屋上壁面緑化助成、接道部緑化助成を取りやめしてしまう現象がありました。 ・安全安心の観点から学校接道部緑化はフェンス中心となっていますが、近隣の関係でブロック塀、万年塀をはずすことができない場合緑化の可能性はあまりありません。										
	(内)委託費		千円	76,941	92,350	83,049	96,781	81,006	90,377											
	職員数(常勤 非常勤)		人	4.30 0.00	4.30 0.00	4.29 0.00	4.30 0.00	5.82 0.00	7.00 0.00											
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	千円	38,958	39,302	39,211	38,915	52,671	63,350											
		(内)非常勤職員分	千円	0	0	0	0	0	0											
	総事業費 + +		千円	125,071	146,492	134,504	150,676	143,583	168,703											
	単位あたりコスト (-) ÷		円	194,197	178,560	190,093	184,537	261,356	217,433											
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0													
		国からの補助金等		千円	0	0	0													
都からの補助金等		千円																		
その他の補助金等		千円																		
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	0	0	0												
差引:一般財源 -		千円	125,071	146,492	134,504	150,676	143,583	168,703												
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 428

20年度の事業実施状況	(1)主な取組み  (執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		公共施設の樹木管理(委託等)	266	所	73,725
		学校接道部緑化	2	校	4,316
		屋上・壁面緑化助成	720	m <sup>2</sup>	5,550
		接道部緑化助成	527.4	m	4,026
		その他(苗木の育成委託・落ち葉のリサイクル)			3,295
(2)事業実績	接道部緑化助成件数は35件 執行率86.6%、屋上緑化助成件数は13件 執行率55.5% 学校接道部緑化工事 2校 杉並第二小学校、西田小学校 整備延長 33.1m 落ち葉集積所設置工事 3校 杉並第三小学校、三谷小学校、天沼中学校 公共施設の樹木維持管理 266箇所				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	接道部緑化助成制度は昭和53年度から緑化推進モデル地区内で行っていましたが、昭和60年度に区内全域へ拡大しました。平成12年度にはそれと平行して他課で行われていたブロック塀の改善に対する助成や融資を見直し現在の助成制度の体系になっています。屋上・壁面緑化助成については平成14年10月から始まり、平成18年度に一部改正を行いました。学校の接道部緑化は万年塀やブロック塀を生けがきや植樹帯にする事業でしたが、現在は安全安心の観点からフェンス緑化が主流になっています。
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	助成制度では壁面に対するm <sup>2</sup> 当りの助成額が少ないこと、既存建物や木造2階建てについては助成条件が厳しいとの指摘がされています。学校の接道部緑化は犯罪などから児童を守るという安全面が最優先となるためブロック塀や万年塀をはずして生けがきにすることはあまり好ましくないとのご意見があります。
	今後の予測	安全性を担保しつつ屋上緑化を幅広く普及するために助成条件などを検討する必要があります。学校接道部緑化は安全安心の考え方からフェンス緑化を中心に設置していきます。

事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいか	左の理由または具体的内容	
	貢献度 大(理由 )	民間のみどりを増やし公共の緑化を推進することにより、まち全体がみどり豊かになってきています。平成19年度みどりの実態調査で接道部緑化率は、目標の20%を超え23%446,000mとなりました。	
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか		
	できる(へ)	緑化計画書提出時にあわせて助成制度の案内をします。窓口配布用の助成制度案内のチラシをより分かり易い物に修正し、HPにも載せるなど、広くPR事業を展開します。	
	成果向上のための方策		
手段・方法の変更(具体的内容)			
(3) 受益者負担の見直し余地は	緑化計画の中で緑化を義務付けている為その費用の一部を助成しています。みどりを作り出すきっかけとなることから助成内容を一層充実していく必要があります。学校接道部緑化については区自ら施設緑化をするため見直しの余地はありません。		
ない(理由)			
(4) コストを下げる余地はあるか	みどりを作り出す有効な手段である為より充実する必要があります。		
ない(理由)			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか	(2) 協働等の相手
	一部実現している	企業・個人事業者((3)へ)
(3) 協働等の形態	(4) 協働等の今後のあり方	
協働[補助・助成]	実施継続	

評価と課題  
平成19年度のみどりの実態調査において屋上・壁面緑化の面積、接道部緑化延長とも着実に増えています。これは各種助成制度や緑化指導など施策が効果を発揮しているものと推察されます。しかしより多くの区民に利用してもらうためには屋上緑化の安全性をどのように担保するのが重要な課題となります。そのためには屋上緑化の基本となる考え方が理解できるマニュアル作成が必要となっています。

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	<input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト:	<input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	
	(1) 前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	制度のPRチラシの改善や緑化計画をもとに個別に助成のPRを郵送で行った。			
	(2) 改革案の概要(いつまでに、どうするかたちに)	事業のあり方点検欄を踏まえて記入 接道部、屋上・壁面緑化助成のPRに一層努めます。接道部緑化施策を拡充するため、生けがき道づくり事業を推進します。			
(3) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	壁面緑化のm <sup>2</sup> あたりの単価を上げると予算額から希望者すべてが受けられない可能性があります。屋上・壁面緑化助成の限度額は100万円であり、他の自治体に比べ魅力的である。多くの方に助成するために限度額を下げると手続きが大変な割りに魅力がなくなってしまいます。				
22年度予算見積りの方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし				
(2) 理由	現状では予算額を満額使っていないので現状維持と思われる。PRに一層努め利用しやすい制度に再検討します。				

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		みどりを守る			款	5	項	4	目	2	事業	3	整理番号	429																				
担当部課名		都市整備部みどり公園課			係名	みどりの事業係			連絡先電話番号	3595			昨年度整理番号	490		枝番号	1																	
上位施策No・施策名		12 水辺とみどりの保全・創出			予算事業区分																													
事業開始		昭和	▼	48	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画事業	分野	1	政策番号	2	施策番号	1	事業コード	6	<input type="checkbox"/>	行革計画事業	<input type="checkbox"/>	主要事業															
事務事業の概要	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理			根拠法令等		(1) 杉並区みどりの条例 (2) 杉並区みどりの条例施行規則																										
	緑化指導: 個人、事業者 保護樹木等の補助: 個人、事業者																																	
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		大きな樹木や樹林を所有者の同意のもと指定し保護しています。特に未来に残したい巨木や珍木については貴重木として指定し手厚く保全しています。また、緑化計画書で一定基準のみどりを植えてもらうことで、まち全体の緑地の確保をしています。															活動指標名(式)		(1) 貴重木指定本数 (2) 保護樹木指定本数														
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		区内で開発・建築行為等を行う業者と区民に緑化計画書の提出(接道部緑化、緑地の確保、高木中木低木の本数の確保)するよう指導している。 保護指定制度は、一定基準以上の樹木、樹林、生けがきを所有者の申し出により保護指定を行い、倒木事故等に対応する損害保険の加入、所有者の維持管理費の負担軽減のため補助金の交付を行うことでみどりの保護に努めている。															成果指標 (代) = 適当な指標がない場合の代替指標		成果指標名(1) 貴重木保全率 算定式・指標の説明等 貴重木指定本数 ÷ 貴重木保全計画本数 × 100 成果指標名(2) 保護樹木継続率 算定式・指標の説明等 今年度樹木数 ÷ 前年度樹木本数 × 100														
区分		単位	18年度		19年度		20年度		21年度		目標値	目標値に対する20年度の達成率%	計画に対する20年度の達成率%																					
			実績		計画		実績		計画		実績		22年度																					
指標	活動指標(1)		本	46	50	46	50	45	50	50	50	90.0	90.0																					
	活動指標(2)		本	1,677	1,900	1,688	1,900	1,812	1,900	1,900	1,900	95.4	95.4																					
	成果指標(1)		%	92	100	92	100	90	100	100	100	90.0	90.0																					
	成果指標(2)		%	100	100	101	100	98	100	100	100	97.8	97.8																					
総事業費・コスト把握	事業費		千円	53,986	65,885	55,480	72,878	61,006	62,352	20年度予算執行率%			83.7																					
	(内) 投資的経費等		千円	0	300	299	7,834	7,134	300	特記事項 ・保護樹林の指定面積および件数が減ったため予算執行率が90%を割っています。 ・20年度は下井草いこいの森の整備費及びインセンティブ経費がついていましたが、21年度は計上されていません。																								
	(内) 委託費		千円	17,031	19,380	18,143	27,903	24,212	17,252																									
	職員数(常勤   非常勤)		人	4.30   0.00	4.30   0.00	4.30   0.00	4.30   0.00	3.70   1.00	2.80   1.00																									
	人件費	(内) 常勤職員分(超勤分含)	千円	38,958	39,302	39,302	38,915	33,485	25,340																									
		(内) 非常勤職員分	千円	0	0	0	0	2,800	2,800																									
	総事業費 + +		千円	92,944	105,187	94,782	111,793	97,291	90,492																									
	単位あたりコスト (-) ÷		円	2,020,522	2,097,740	2,053,978	2,079,180	2,003,489	1,803,840																									
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0																											
		国からの補助金等		千円	0	0	0																											
都からの補助金等		千円																																
その他の補助金等		千円																																
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	0	0	0																										
差引: 一般財源 -		千円	92,944	105,187	94,782	111,793	97,291	90,492																										
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0																										

18年度、19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 429

20年度の事業実施状況	(1)主な取組み  (執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		樹木・樹林・生けがき・貴重木の保護指定補助金交付延人数	974	件	37,301
		区営苗圃の維持管理(委託等)	8138	m <sup>2</sup>	11,916
		寄付樹木の活用(委託等)	80	本	2,712
		市民緑地	2	所	7,646
その他(緑化指導・生き物生息場所の保全・創出など)					1,431
(2)事業実績	保護樹木1,812本、貴重木 45本、保護樹林497,521.14m <sup>2</sup> 、保護生けがき6,398.81m、緑化計画書の提出 1,535件(区内確認申請提出件数 1,859件中提出率82.6%)この指導で計画された接道部緑化は5,753.84m接道部延長の44.08%であり、緑地面積は61,091.50m <sup>2</sup> 計画敷地の22.40%を占めています。区営苗圃は4箇所 8138m <sup>2</sup> を運営。寄付樹木は受領件数 24件 寄付樹木80本 市民緑地 2箇所 下井草いこいの森、清水いこいの森				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	保護指定制度はみどりの条例ができた当初から柱となる制度で、今あるみどりを指定することで未来にわたり残す制度です。保護樹木は指定と解除が半分半分の為、指定本数の事態はほぼ横ばいとなっていますが、保護樹林は徐々に減少しています。
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	日照、落葉、掃除、樹液、虫などで樹木所有者が隣接者に対し何ら対応しない場合や何も手入れをしないのに補助金だけが区から所有者に支払われることに対する不満が多く寄せられています。樹木の維持管理は所有者の責務ですが実際、その経費に対して区の補助金が小額なため、強く維持管理をお願いするのは難しいのが現状です。その結果、民有地での樹木と人との共存は難しいため、公共施設での緑地確保を求める声が大きくなっています。
	今後の予測	所有者の高齢化が顕著になっています。今後、相続税の問題や年金生活により剪定費用の負担ができない、体が思うように動かないため清掃ができないなどにより、周辺の住民とのトラブルがさらに増えると考えられます。

事業のあり方点検	左の理由または具体的内容	
	(1) 施策への貢献度は大きい 貢献度 中(理由 )	所有者の同意で保護指定をしますので、解除も簡単に行うことができます。保護をしてもすぐに形態を変えられる制度のためみどりを守る方法としては不安定です。
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか できない(理由 ) 成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	現状の補助金額では樹木や樹林を継続して守る強い拘束力はありません。  優先的に守る樹木樹林の選別と剪定費用の負担を補助する制度の導入。雨どいのカバー設置の助成など樹木と人の共存に向けた取り組みが必要です。
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	大木等の剪定には費用が大変かかり、補助金の額はそれを賄えるほどの額になっていません。現状でも所有者の負担は大きくなっています。
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	大木等の剪定には費用が大変かかる為難しいと思われます。

協働等点検	(1)協働等は実現しているか 一部実現している	(2)協働等の相手 企業・個人事業者(3)へ
	(3)協働等の形態 協働[補助・助成]	(4)協働等の今後のあり方 実施継続

評価と課題  
保護指定制度は所有者の意思による保護の仕組みで、相続などがひとたび発生すると根本的にみどりを守る仕組みとはなっていません。日常近隣との関係を良好にするために区が支援できること、土地所有者に相続が発生したとしても樹林として残すことができる仕組みを作ることが早急の課題です。そのためには保護指定制度の根本的な改正の検討も必要となっています。

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	<input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト:	<input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	平成19年度に行われたみどりの実態調査結果を用いGISより保護樹林面積の精査確定をおこないました。また、保護樹木等の所有者向け冊子と樹木マップの作成を行いました。			
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうするかたちに)	事業のあり方点検欄を踏まえて記入 優先的に守る樹木樹林の選別と剪定費用の負担を補助する制度の導入の検討をします。また落ち葉から雨どいを守るための雨どいのカバー設置の助成など樹木と人の共存に向けた取り組みが必要です。			
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	保護指定件数が23区内でも多いため、それらの樹木樹林を手厚く保護するには限界があります。しかし、保護指定にたとえばランクをつけるとすると、ランクの低い樹木、樹林は所有者のモチベーションが下がりが一気に関係が進む可能性があります。民有のみどりは最終的に個人の意思で失われるため、区では残すための仕組みを考え努力をする必要があります。			
22年度方針	(1)22年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし	(2)理由	現状では保護指定制度の十分な検討が必要です。	



# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		みどりの基金		款	5	項	4	目	2	事業	4	整理番号	430						
担当部課名		都市整備部みどり公園課		係名	みどりの計画係			連絡先電話番号	3593		昨年度整理番号	490	枝番号	2					
上位施策No・施策名		12 水辺とみどりの保全・創出		予算事業区分															
事業開始		平成	▼	14	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	実施計画事業	分野	1	政策番号	2	施策番号	1	事業コード	3	<input type="checkbox"/>	行革計画事業	<input type="checkbox"/>	主要事業
事務事業の概要	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		基金に寄付を寄せる個人、団体、事業者		根拠法令等		(1) 杉並区みどりの基金条例 (2) 杉並区みどりの基金運営要綱										
	事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		当面、積立額5億円を目標とします。		活動指標名(式)		(1) 基金寄付件数 (2) 継続寄付団体数												
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		区内のみどりの保全及び緑化の推進に関する事業の財源に充てるため、区民、事業者及び区が協働して寄付を募る。		成果指標 (代) = 適当な指標がない場合の代替指標		成果指標名(1) 年間寄付等総額 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 継続寄付団体による寄付等総額 算定式・指標の説明等												
	区分		単位	18年度	19年度		20年度		21年度	目標値	目標値に対する20年度の達成率%	計画に対する20年度の達成率%							
指標	活動指標(1)		件	16	50	27	50	25	50	100	25.0	50.0							
	活動指標(2)		団体	5	10	7	10	10	10	10	100.0	100.0							
	成果指標(1)		千円	339	10,000	1,188	10,000	1,659	10,000	10,000	16.6	16.6							
	成果指標(2)		千円	240	500	267	500	297	500	500	59.4	59.4							
総事業費・コスト把握	事業費		千円	604	10,170	1,188	10,336	2,132	10,336	20年度予算執行率% 20.6									
	(内)投資的経費等		千円	0	0	0	0	0	0	特記事項									
	(内)委託費		千円	0	0	0	0	0	0	寄付見込額に対する実際の寄付額は少なく、執行率が20.6%と低くなっていますが、19年度に比べると倍増しています。									
	職員数(常勤 非常勤)		人	0.10 0.00	0.10 0.00	0.05 0.00	0.05 0.00	0.05 0.00	0.05 0.00										
	人件費	(内)常勤職員分(超勤分含)	千円	906	914	457	453	453	453										
		(内)非常勤職員分	千円	0	0	0	0	0	0										
	総事業費 ++		千円	1,510	11,084	1,645	10,789	2,585	10,789										
	単位あたりコスト (-)÷		円	94,375	221,680	60,926	215,780	103,400	215,780										
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0												
		国からの補助金等		千円	0	0	0												
都からの補助金等		千円																	
その他の補助金等		千円																	
特定財源計 + + +		千円	0	0	0	0	0	0											
差引:一般財源 -		千円	1,510	11,084	1,645	10,789	2,585	10,789											
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											

18年度、19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成21年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 430

20年度の事業実施状況	(1)主な取組み  (執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		みどりの基金寄付総額			
		みどりの基金の利子			472
		その他 ( )			1
(2)事業実績	区民等の認知度をより高めるため、カード型パンフレットの作成、Fika Fikaとのタイアップ及びなみすけケーキの売上からの一部繰入などの取組みを行っています。				
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	年間の寄付総額が小額のまま推移しています。			
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	基金の使い道に人材育成などが色濃く出ていることから、そうした使われ方なら寄付しないという意見があります。一方、チャリティーコンサートを企画実施するなど、協力する団体も現れてきています。			
	今後の予測	このままの運営状況では、基金の有効な活用は望めないため、基金の有効な活用について検討する必要があります。			
事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいか 貢献度 大(理由 )	左の理由または具体的内容 施策の成果やPRなど、貢献度は大きいです。			
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか できない(理由 ) 成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	積立額が小額であるため、成果は望めません。			
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	受益者負担を考える事業ではありません。			
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	区民等からの寄付金を積み立てる事業であり、最小の経費で事務を行っています。			
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)			
	(3) 協働等の形態 協働[その他]	(4) 協働等の今後のあり方 実施継続			
評価と課題	寄付が増加しない現状の中で、基金の用途及びPR方法の見直しを行い、寄付意識高揚に向けた取組みを一層推進する必要があります。				

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	● 増	○ 現状維持	○ 減	コスト:	○ 増	● 現状維持	○ 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(21年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	カード(名刺)サイズのパンフレットの作成、なみすけケーキの売上からの一部繰入などPRに努めました。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうかたちに)	事業のあり方点検欄を踏まえて記入 東京緑化推進委員会が取組む類似の「緑の募金」との区別を明確にするため、基金の用途を限定し、積極的に寄付の呼びかけを行い、基金残高の増額を目指します。							
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	基金を有効に活用するため、用途やPR手法について21年度に見直しを行います。							
22年度方針	(1)22年度予算見積の方向性	○ 大幅増	○ 増	● 増減なし	○ 減	○ 大幅減	○ 予算なし		
	(2)理由	基金の増額を図るため、寄付があった場合に区が最低同額の積立をするなど、基金の積立を区民等と区が協働して取組んでいることが明確に分かる仕組みを確立します。							